

教員働き方改革へ 部活動在り方議論

県教委、有識者会議

県教育振興基本計画の改定に向けた有識者会議の第5回会合が17日、県庁であった。

県教委が進める教員の働き方改革に関し、超過勤務の多くを占める学校の部活動を地域で運営するクラブに転換する提言があった一方、子どもがクラブの活動場所に移動する負担など問題点も挙がった。働き方改革に保護者や地域の理解を得て、県民全体で考え

る必要性も指摘した。

県教委が年度内に策定する学校業務改善方針の骨子案を基に議論した。委員からは、県教委が進める県内全中学校の部活動への外部指導員導入は「地域に人材がおらず、絶対的な数が足りない」との指摘が出た。「子どものためならいくらでも時間をかける」「熱血先生が福井は多いが、決められた時間でこなすことも大切」との意見がある一方で「熱血先生を含め教員にも多様性があるべきで、事務的業務を減らすことが大事」と

の声もあった。

骨子案は過労死ラインの月80時間以上残業する公立校教員を2021年度までになくすことを目標とし、中学校の部活動数の削減などを盛り込んでいる。
(小林真也)